

ふりがな

なかの さとし

氏名

中野 聡

1. 学歴

- 1983 一橋大学法学部国際関係課程卒業
1985 同大学院社会学研究科（地域社会研究専攻）修士課程修了
1990 同博士後期課程 単位修得退学
1996 社会学博士（一橋大学）

2. 職歴・研究歴

- 1990年04月～1992年09月 神戸大学教養部 講師
1992年10月～1994年05月 神戸大学国際文化学部 講師
1994年06月～1999年03月 神戸大学国際文化学部 助教授
1994年09月～1995年07月 フィリピン大学哲学社会科学学部歴史学科 客員研究員
1999年04月～2000年03月 一橋大学社会学部 助教授
2000年04月～2003年03月 一橋大学社会学研究科 助教授
2003年04月～ 一橋大学社会学研究科 教授
2005年09月～2006年08月 コロンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所 客員研究員
2007年04月～2013年08月 津田塾大学学芸学部 非常勤講師
2009年01月～2010年11月 一橋大学社会学研究科 役員補佐
2010年04月～2011年03月 京都大学文学部 非常勤講師
2011年04月～2013年03月 一橋大学社会学研究科 評議員
2013年09月～2014年08月 ジョージ・ワシントン大学シグーア・アジア研究所 客員研究員
2014年12月～2016年11月 一橋大学社会学研究科 研究科長
2016年04月～2016年09月 青山学院大学文学部 非常勤講師
2016年12月～2018年07月 一橋大学国際共同研究センター センター長
2016年12月～2018年11月 一橋大学 副学長
2020年04月～2022年03月 沖縄国際大学沖縄法政研究所 研究員
2020年09月～ 一橋大学 学長

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

アメリカ社会史総論

アメリカ社会史特論

Topics of Modern and Contemporary History

Topics of Social Sciences

社会史方法論

現代史特論（廃止）

現代社会文明論 (廃止)

(b) 大学院

アメリカ研究

社会研究の基礎

社会研究の技法

(B) ゼミナール

学部ゼミ

大学院ゼミ

導入ゼミ

社会研究入門ゼミ

4. 主な研究テーマ

研究分野：地域研究、アメリカ史、フィリピン史、日本現代史、国際関係史

キーワード：アメリカ、フィリピン、日本、歴史学、国際関係史、政治学、民主主義、移民、戦争、戦争の記憶

科研費分類：地域研究 (2701)、ヨーロッパ史・アメリカ史 (3304)、アジア史・アフリカ史 (3303)、日本史 (3302)

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・ Japan's Colonial Moment in Southeast Asia 1942-1495: The Occupiers' Experience, Routledge 2018 年
- ・ 「8 장 베트남 전쟁의 시대: 1960~1975 년」, 와다 하루키, 고토 겐이치, 기바타 요이치, 야마무로 신이치, 조경달, 나카노 사토시, 가와시마 신 『동아시아 근현대통사: 화해와 협력을 위한 역사인식』 책과 함께, 2017, 360-401 ; 「맺는 글」 상계서, 521-526. (中野聡 「8 章 베트남戦争の時代: 1960~1975 年」 和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真 『東アジア近現代通史: 和解と協力のための歴史認識』 (ソウル: 책과 함께, 2017 年), 360-401 頁; 中野聡 「おわりに」 上掲書, 521-526 頁)。
- ・ 「歴史修正主義とその背景」 歴史学研究会編 『第4次 現代歴史学の成果と課題 2001-2015 年 第3巻: 歴史実践の現在』 績文堂出版, 2017 年, 2-16 頁。
- ・ 「はじめに」 足羽興志子・中野聡・吉田裕編 『平和と和解: 思想・経験・方法』 旬報社, 2015 年, 3-7 頁。*
- ・ 「戦没者追悼・慰霊」 東郷和彦・波多野澄雄編 『歴史問題ハンドブック』 岩波書店・岩波現代全書, 2015 年, 248-253 頁。*
- ・ 「討議 歴史学のアクチュアリティ 新自由主義時代と歴史学の将来 / 源川真希・安村直己・中野聡・加藤千香子・戸邊秀明 述」 歴史学研究会編 『歴史学のアクチュアリティ』 東京大学出版会, 2013 年, 227-262 頁。*
- ・ 『東南アジア占領と日本人—帝国・日本の解体—』 岩波書店, 2012 年。
- ・ 「アメリカの世界戦略とアジア」 『岩波講座 東アジア近現代通史 10 和解と協力の未来へ』 岩波書店, 2011 年, 59-84 頁。
- ・ 「通史 ベトナム戦争の時代 1960-1975 年」 『岩波講座 東アジア近現代通史 8 ベトナム戦争の時代 1960-1975 年』 岩波書店, 2011 年, 1-39 頁。
- ・ 「二つの戦後 60 年—比米戦争と第二次世界大戦の記憶と哀悼」 藤原帰一・永野善子編 『アメリカの影のもとで—日本とフィリピン』 法政大学出版局, 2011 年, 117-153 頁。

- ・「【東南アジア】「忘却の共同体」の行方」菅英輝編『東アジアの歴史摩擦と和解可能性—冷戦後の国際秩序と歴史認識をめぐる諸問題—』凱風社、2011年、294-317頁。
- ・“Memory and Mourning: Six Decades after the Two Wars,” Kiichi Fujiwara and Yoshiko Nagano, eds., *The Philippines and Japan in America’s Shadow*. Singapore: NUS Press, March 2011: 152-177.
- ・「慰霊のための平和—フィリピン戦没日本人メモリアルをめぐる—」佐藤健生、ノルベルト・フライ編『過ぎ去らぬ過去との取り組み：日本とドイツ』岩波書店、2011年、157-175頁。
- ・「米比戦争の記憶と記憶の米比戦争」今井昭夫・岩崎稔編『記憶の地層を掘る—アジアの植民地支配と戦争の語り方』御茶の水書房、2010年、231-252頁。
- ・「太平洋植民地の獲得とアメリカの『アジアへの道』」『岩波講座 東アジア近現代通史 2 日露戦争と韓国併合 19世紀末-1900年代』岩波書店、2010年、116-135頁。
- ・「ゲイ権利運動とアメリカ政治—クロゼット、カミングアウト、アウティング」木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会—男性史・軍隊・セクシュアリティ』旬報社、2010年、215-237頁。
- ・「和解と忘却—戦争の記憶と日本・フィリピン関係」平和と和解の研究センター・足羽興志子・濱谷正晴・吉田裕編『平和と和解の思想をたずねて』大月書店、2010年、252-272頁。
- ・「『植民地責任』論と米国社会—抗議・承認・生存戦略」永原陽子編『「植民地責任」論：脱植民地化の比較史』青木書店、2009年、366-392頁。
- ・「マニラ戦と南京事件」記録集編集委員会編『南京事件 70 周年国際シンポジウムの記録』日本評論社、2009年、152-162頁。
- ・『歴史経験としてのアメリカ帝国—米比関係史の群像』岩波書店、2007年。
- ・「日本・フィリピン戦没者追悼問題の過去と現在—「慰霊の平和」とアムネシア—」森村敏巳編『視覚表象と集合的記憶—歴史・現在・戦争—』旬報社、2006年、289-321頁。
- ・「南方軍政と植民地統治—帝国・日本の解体と東南アジア」倉沢愛子編『岩波講座アジア・太平洋戦争 7 支配と暴力』岩波書店、2006年、3-29頁。
- ・「イギリス帝国の終焉と東南アジアの国民国家エリート」渡辺昭一編『帝国の終焉とアメリカ—アジア国際秩序の再編』山川出版社、2006年、252-279頁。
- ・「彼らの自助を助けるために—冷戦期アジア太平洋におけるコミュニティ・ディヴェロップメントの論理と現実—」油井大三郎・遠藤泰生編『変貌するアメリカ太平洋世界(第1巻)：太平洋世界の中のアメリカ—対立から共生へ—』彩流社、2004年、109-131頁。
- ・「追悼の政治—戦没者慰霊問題をめぐる日本・フィリピン関係—」池端雪浦、リディア・N・ユー・ホセ編『近現代日本・フィリピン関係史』岩波書店、2004年、367-408頁。
- ・「フィリピーノ・アメリカンの語り方—移民史認識と第二次世界大戦ベテラン支援運動をめぐる—」大津留(北川)智恵子・大芝亮編『アメリカのナショナリズムと市民像—グローバル化時代の視点から』ミネルヴァ書房、2003年、215-247頁。
- ・「コールド・ウォリアーズのフィリピン体験」油井大三郎・遠藤泰生編『浸透するアメリカ・拒まれるアメリカ』東京大学出版会、2003年、250-269頁。
- ・「フィリピンの米軍基地問題—植民地時代から1992年まで」藤本博・島川雅史編『アメリカの戦争と在日米軍：日米安保体制の戦後史』社会評論社、2003年、163-216頁。
- ・「アジア的リーダー論—世紀転換期のリーダー交代劇が意味するもの—」青木保・姜尚中・小杉泰・坂元ひろ子・莫邦富・山室信一・吉見俊哉・四方田大彦編『アジア新世紀第7巻 パワー』岩波書店、2003年、49-69頁。
- ・“Politics of Mourning: Postwar Philippines-Japan Relations regarding Memorialization of the Japanese War Dead,” Ikehata Setsuho & Lydia N. Yu-Jose, eds., *Philippines-Japan Relations*. Quezon City: Ateneo de Manila University Press, February

2003, 337-376.

- ・“Nation and Citizenship in the Filipino World War II Veterans Equity Movement, 1945-2001,” in Ryo Oshiba, Edward Rhodes, and Chieko Kitagawa Otsuru, eds., *“We the People” in the Global Age: Re-examination of Nationalism and Citizenship* (JCAS Symposium Series; 18. State, Nation and Ethnic Relations; 6). Osaka: The Japan Center for Area Studies (National Museum of Ethnology), 2002, 205-225.
- ・「賠償と経済協力—日本・東南アジア関係の再形成」後藤乾一編『岩波講座東南アジア史第8巻 国民国家形成の時代』岩波書店、2002年、283-304頁。
- ・「日本占領の歴史的衝撃とフィリピン—奪われた選択肢」後藤乾一編『岩波講座東南アジア史第8巻 国民国家形成の時代』岩波書店、2002年、57-82頁。
- ・「米国植民地下のフィリピン国民国家形成」池端雪浦編『岩波講座東南アジア史第7巻 植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』岩波書店、2002年、135-159頁。
- ・「民主主義と他者認識：選挙制度をめぐる米比関係史に関する試論」大津留（北川）智恵子・大芝亮編『アメリカが語る民主主義：その普遍性・特異性・相互浸透性』ミネルヴァ書房、2000年、239-267頁。
- ・“Appeasement and Coercion,” in Ikehata Setsuho & Ricardo Trota Jose (eds.), *The Philippines Under Japan: Occupation Policy and Reaction*. Quezon City: Ateneo de Manila University Press, c1999, 21-58.
- ・「フィリピン系退役軍人差別は正問題の半世紀」五十嵐武士編『アメリカの多民族体制——「民族」の創出』東京大学出版会、2000年、215-240頁。
- ・『フィリピン独立問題史—独立法問題をめぐる米比関係史の研究(1929-1946年)』龍溪書舎、1997年。
- ・「フィリピン戦後体制の形成」細谷千博ほか編『太平洋戦争の終結』柏書房、1997年、343-373頁。
- ・「フィリピン・持続したリーダーシップ」倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』早稲田大学出版部、1997年、57-80頁。
- ・「宥和と圧制：消極的占領体制とその行方」および「日本占領期フィリピン史に関する図書館・文書館・博物館の紹介」池端雪浦編『日本占領下のフィリピン』岩波書店、1996年、23-58, 334, 361-371頁。
- ・「アジア・太平洋の近代と植民地支配—支配の論理と他者認識をめぐって—」合田濤編『アジア・太平洋の人と暮らし—大学洋上セミナー4』南窓社、1994年、68-82頁。
- ・「米国のフィリピン再占領—封じ込められた自主変革の契機と「親米」国家への道—」中村政則・油井大三郎・豊下櫛彦編『占領改革の国際比較』三省堂、1994年、27-55頁。
- ・「国際化の中の豊島区」豊島区史研究会編『豊島区史通史編4』1992年、715-757頁。
- ・「ナショナリズムと”ウィンドフォール・メンタリティ”—コモンウェルス政府財政問題をめぐる米比関係(1935-41)」『AA研東南アジア研究第2号：東南アジアのナショナリズムにおける都市と農村』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1991年、99-150頁。
- ・「植民地からの移民—フィリピン系移民排斥運動と独立問題—」本田創造編『アメリカ社会史の世界』三省堂、1989年、353-380頁。

(b) 論文

- ・「清水知久・高橋章・富田虎男『アメリカ史研究入門』：アメリカという問題と格闘する」『歴史評論』840号（2020年4月）：61-71頁。
- ・“Overcome by Nationalism: Japanese Occupation of Southeast Asia (1942-1945) as Remembered by the Occupiers.” *Journal of Philippine Local History and Heritage* Vol. 4 No.1 (2018).
- ・「アジア主義：記憶と経験」『現代思想』46巻9号（2018年6月臨時増刊号：総特集 明治維新の光と影：150年目の問い）：134-149頁。
- ・Satoshi Nakano. “Methods to Avoid Speaking the Unspeakable: Carmen Guerrero Nakpil, the Death of Manila, and Post-

- World War II Filipino Memory and Mourning.” *Hitotsubashi Journal of Social Studies* Vol.48 No.1 (January 2017): 27-41.
- ・『『東アジア』とアメリカ：広域概念をめぐる闘争』『歴史学研究』907号（2013年7月）：15-25頁。
 - ・Satoshi Nakano. “La gestion des colonies et l’administration militaire dans le sud: le démantèlement de l’Empire japonais en Asie du Sue-Est (traduit par Rémi Buquet)” *Guerres mondiales et conflits contemporains* N.249 (Janvier-Mars 2013): 75-100.
 - ・「アメリカ史研究の現状と課題」『立教大学アメリカン・スタディーズ』32号(2010年3月)：9-20頁。
 - ・「カルメン・ゲレロ・ナクピルと『マニラの死』：『対象喪失』の同時代史をめぐる予備的考察」『同時代史研究』1号（2008年）：22-32頁。
 - ・“The Filipino World War II Veterans Equity Movement and the Filipino American Community,” *Pacific and American Studies*, Vol. 6 (March 2006): 53-81.
 - ・“South to South across the Pacific: Ernest E. Neal and Community Development Efforts in the American South and the Philippines,” *Japanese Journal of American Studies* [Japanese Association for American Studies], No.16 (2005): 181-202.
 - ・“Gabriel L. Kaplan and U.S. Involvement in Philippine Electoral Democracy: A Tale of Two Democracies,” *Philippine Studies* [Ateneo de Manila University Press] Volume 52, No.2 (2004): 149-178.
 - ・「アメリカ帝国とフィリピン——遮断と包摂・植民地社会の適応——」『歴史学研究(特集「帝国」への新たな視座 (I))』777号(2003年7月):12-22頁。
 - ・「フィリピン戦没日本人慰霊の営みと戦争責任の記憶」『季刊 戦争責任研究』37号(2002年秋季号、2002年6月15日)：10-17頁。
 - ・“Nation, Nationalism and Citizenship in the Filipino World War II Veterans Equity Movement, 1945-1999,” *Hitotsubashi Journal of Social Studies*, Vol.32, No.2 (December 2000): 33-53
 - ・「20世紀フィリピンと『アメリカ民主主義』」『歴史学研究』716号（1998年10月、大会増刊号）：2-11頁。
 - ・“The “Windfall”Revenue Controversy (1937-1941): A Perspective on Philippine Commonwealth History,” *Pilipinas* [Arizona State University], No. 28 (Spring 1997): 31-60.
 - ・“US Philippine Policy and the Interpretation of National Interest: The FDR Administration and the Philippine Question, 1935-42,” *The Journal of American Studies* [The American Studies Association of Korea], Vol.28, Number 2 (1996 Winter): 475-502.
 - ・「日本の東南アジア占領体制—フィリピン、インドネシアを比較して—」『歴史学研究』651号(1993年10月、1993年度大会報告集)：179-188頁。
 - ・「フランクリン・D・ローズヴェルト政権とフィリピン問題(2)—ケソン訪米と独立法改正交渉の開始(1937年1-3月)—」『神戸大学教養部論集』51号(1993年3月)：21-50頁。
 - ・「フランクリン・D・ローズヴェルト政権とフィリピン問題(1)—基本政策の形成をめぐる(1933-37年)—」『神戸大学教養部論集』48号(1991年10月)：27-52頁。
 - ・「フィリピンの対日協力者問題とアメリカ合衆国」『歴史学研究(特集：占領と旧体制)』600号(1989年11月)：57-67頁。
 - ・「フィリピン輸出農業と独立問題—1930年代後半における砂糖・椰子産品をめぐる特惠問題を中心として—」『一橋研究』14巻2号(1989年7月)：59-86頁。
 - ・「米国議会におけるフィリピン独立問題の展開—大恐慌期の貿易・独立問題と米比諸利害—」『歴史学研究』583号(1988年8月)：1-18頁。

(C) 翻訳

(d) その他

- 「ラッセル法廷から半世紀（特集／民衆法廷運動の軌跡と現在—「ラッセル法廷」を中心に）」『歴史評論』823号(2018年11月)：6-14頁。
- 「コメント—安穩・惣無事・コトナカレと分断の比較史を展望する—（特集：「平和」の内実を問う—権力の「平和」と地域の「平和）」『人民の歴史学』217号（2018年9月）：24-27頁。
- 「（総会公開講演）20・21世紀転換期世界における歴史修正主義：いま何が起きているのか」『日本歴史学協会年報』第33号（2018年3月）：17-21頁。
- 「アジアの経済発展と立地・環境—都市・農村関係の再構築を考える—：問題提起」「同：まとめ」『学術の動向』23巻2号（2018年2月）：50-51,70-71頁。
- 「『伝統を守るための革新』で日本酒の世界に新風を吹き込む：対談 新政酒造株式会社 代表取締役社長 佐藤祐輔・一橋大学副学長（国際交流・広報・社会連携）中野聡」『HQ』57（2018年冬号）：1-7頁。
- 「戦争の記憶と忘却」大野拓司・鈴木伸隆・日下渉（編著）『フィリピンを知るための64章』（明石書店、2016年12月31日、全400頁）：124-128頁。
- 「世界の潮—天皇フィリピン訪問が意味したこと」『世界』880号（2016年4月）：29-32頁。
- 「フィリピンで日本軍は何をしたのか？中野聡×荻上チキ（2016年01月27日放送「天皇・皇后両陛下がフィリピン公式訪問。戦時中、日本軍は何をしたのか？」より抄録。（構成／住本麻子）SYNODOS: Academic Journalism, 2016年3月1日掲載。http://synodos.jp/international/16290
- 「メガシティ社会科学研究のマトリクス（特集アジアのメガシティ東京）」『学術の動向』21巻1号（2016年1月）。
- 「「東アジア」をめぐる「想像の共同体」とアメリカ」日韓文化交流基金編『世界史認識における「アメリカ」の問題（日韓・韓日歴史家会議報告書；第14回）』（日韓文化交流基金、2015年）：158頁。
- 大戦終結後七〇年をアジア・太平洋地域はどのように歩んだか（特集 大戦終結70年とアジア・太平洋）」『歴史地理教育』829号(2015年1月)：4-11頁。
- 「特集2 距離探る比・越の対中安全保障：フィリピン」『イー・ワールド・プレミアム』Vol.4（2014年5月）：24-27頁。
- 責任編集『週刊新発見！日本の歴史43 現代3 アジア・太平洋戦争の全貌』朝日新聞出版、2014年5月11日、全39頁。
- 「アメリカLGBT史のアプローチ—マイノリティ史からの行方—」『歴史評論』763号（2013年11月）：41-52頁。
- 「東日本大震災・福島原発事故と歴史学研究会」『歴史学研究』909号（2013年9月）：47-49頁。
- 「シリーズ現代の視点 一橋大学教授 中野聡さんに聞く」『しんぶん赤旗』（2012年12月12日）：9頁。
- 「インタビュー・アジア研究と私 「固有の領域」としての東南アジア史研究へ / 池端雪浦 述；中野聡 聞き手」『岩波講座東アジア近現代通史. 別巻（アジア研究の来歴と展望）』（岩波書店、2011年9月）。
- 「GLBT歴史博物館『私たちクィアの宏大な過去』」『歴史学研究月報』No.624（2011年12月）：6-7頁。
- 「事務局長退任の弁」『歴史学研究月報』No.620（2011年8月）：1-2頁。
- 「（書評）証言を紡ぎ全体像に迫る 「パターン 死の行進」（マイケル・ノーマン、エリザベス・M・ノーマン 著、浅岡正子、中島由華訳）」共同通信配信書評、2011年6月3日。
- 「（新刊書紹介）永井均『フィリピンと対日戦犯裁判 1945～1953年』岩波書店 2010年 435+7ページ」『東南アジア 歴史と文化』40号（2011年5月）：183-186頁。
- 「人物コラム—ランズデールとマグサイサイ」『岩波講座 東アジア近現代通史7 アジア諸戦争の時代 1945-1960年』（岩波書店、2011年2月17日、390頁）：122-123頁。

- 「人物コラム—マヌエル・ケソン」『岩波講座 東アジア近現代通史6 アジア太平洋戦争と「大東亜共栄圏」1935-1945年』（岩波書店、2011年1月27日、393頁）：390-391頁。
- 「ワールドワイド オブ タカラヅカ（特別企画 第51回）宝塚大劇場星組公演『愛と青春の旅だち』」『歌劇』2010年10月号、103-105頁。（インタビュー）
- 「蜘蛛の糸をつかむ「強い個人」たれ、というメッセージに思う事々（映画「プレシャス」作品評）」『キネマ旬報』2010年5月上旬号：40-41頁。
- 「第44回韓国アメリカ学会主催国際セミナーに参加して」『アメリカ学会会報』172号（2010年4月）：4頁。
- 「アメリカ史研究文書館案内」（共著者、橋川建彦）有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』（山川出版社、2009年12月10日）：366-377頁。
- 「映画『ミルク』が背負うもの—生きるためのゲイ権利運動」『キネマ旬報』2009年5月上旬号：39-40頁。
- 「時が熟する—戦争の記憶をめぐる」『HQ』Vol.21（2008年12月）：32-33頁。
- 「世界史を15分間考える」人文会編『人文書のすすめIV』人文会（2008年10月20日）：59-72頁。
- 「新装開館迫るスミソニアン国立アメリカ史博物館（上）・（下）」『歴史学研究月報』No.586,587（2008年10月、11月）。
- 「米西戦争（1898年）」、「門戸開放政策（19世紀末～20世紀初め）」歴史学研究会編『世界史史料7：南北アメリカ 先住民の世界から19世紀まで』（岩波書店、2008年3月25日）：392-395頁。
- 「司会から 日本国憲法のクリティカル・スタディーズ」同時代史学会編『日本国憲法の同時代史』（日本経済評論社、2007年11月20日）：77-87頁。
- 「フィリピン・コモンウェルスの発足（1935-38年）」、「日本のフィリピン占領（1942-45年）」歴史学研究会編『世界史史料10：20世紀の世界I ふたつの世界大戦』（岩波書店、2006年12月7日）：288-289、379-380頁。
- 「『帝国』としてのアメリカ」アメリカ学会訳編『原典アメリカ史 社会史史料集』（岩波書店、2006年8月29日）：201-213頁。
- コメント「戦争史とオーラル・ヒストリアン（小特集 方法としてのオーラル・ヒストリー再考）」『歴史学研究』813号（2006年4月）：30-32頁。
- 「フィリピンが見た戦後日本—和解と忘却—」『思想 戦後60年』No.980（2005年12月）：42-56頁。
- 書評「永野善子著『フィリピン銀行史研究—植民地体制と金融—』御茶の水書房 2003年 xv+356+xxxix ページ」『アジア経済』第46巻4号（2005年4月15日）：107-111頁。
- 紹介「紀平英作 編『帝国と市民—苦悩するアメリカ民主政』（山川出版社、2003年、3,200円）」『アメリカ学会会報』155号（2004年11月）。
- “Comments.” Laura Hein and Daizaburo Yui, eds. *Crossed Memories: Perspectives on 9/11 and American Power*. Tokyo: Center for Pacific and American Studies, The University of Tokyo, 2003. (235pp.), pp.152-158.
- 「フィリピン系アメリカ人」綾部恒雄監修『世界民族事典』（弘文堂、2000年7月）：569頁。
- 「東南アジアに波紋 米国の対テロ戦争」『世界』（2002年8月号）：169-173頁。
- 「ビー・アメリカン！—第2次世界大戦ベテラン問題とフィリピーノ・アメリカン・コミュニティ」『アジア遊学』39号（2002年5月5日、特集・移民のエスニシティと活力）：62-73頁。
- 「解題（第2セッション—戦争・歴史・文化）」、加藤哲郎・渡辺雅男編『一橋大学国際シンポジウム 20世紀の夢と現実：戦争・文明・福祉』（彩流社、2002年5月10日）：140-143頁。
- 「日本における太平洋地域研究の実態調査」および「フィリピン・シンガポール・マレーシア」、油井大三郎・遠藤泰生編『太平洋地域研究センターの現状—海外調査報告』（2001年3月31日）：13-18、46-50頁。（英訳版 “Pacific Area Studies in Japan: On-Site Research Visits”; “Philippines, Malaysia, Singapore,” Daizaburo Yui and Yasuo Endo, eds., *Reports on Pacific Area Studies Research Centers*, March 31, 2001, pp.10-15, 57-60.

- 「津波」、辻内鏡人追悼文集編集委員会編『言葉』(2001年12月1日) : 129-130頁。共著者：辻内達子ほか107名。
- 「最後にお会いしたときのこと」、本田創造追悼文集編集委員会編『毅然として』(2001年6月9日) : 190-192頁。
共著者：中道一郎ほか75名。
- 編集および「はじめに」、歴史学研究会編『20世紀のアメリカ体験』(青木書店、2001年4月25日) : xiii-xx頁。
共著者：加藤哲郎、木戸衛一、深川美奈、佐藤勘治、北沢義之、吉村慎太郎、長田彰文、西村成雄、古田元夫、前田真理子、岩本裕子、藤本博。
- 書評「高橋章著『アメリカ帝国主義成立史の研究』、名古屋大学出版会、一九九九年」『アメリカ史評論』19号(2001年) : 32-40頁。
- 「日本占領期—『トモダチ』の圧制」、寺田勇文・大野拓司編著『現代フィリピンを知るための60章』(明石書店、2001年1月31日) : 47-50頁。共著者：大野拓司、寺田勇文ほか24名。
- 「国際関係史の課題と方法—20世紀米比日関係史の視角」『一橋論叢』123巻4号(2000年4月) : 97-113頁。
- “In the Language of the Occupier: Recent Work on the Japanese Period in the Philippines”, Social Science Japan Journal [Institute of Social Science, University of Tokyo/ Oxford University Press], Vol.2, Number 2 (October 1999): 267-272.
- 「フィリピン『独立』百年」『世界』(1998年10月号) : 319-327頁。
- 「第31回韓国アメリカ学会主催国際セミナーに参加して」『アメリカ学会会報』127号(1997年1月25日) : 3頁。
『編集復刻版 第十四軍軍宣伝班・宣伝工作史料集(全二巻)』編集・解説(龍溪書舎、1996年11月)。担当部分
第1巻 : 3-40頁。共同編集・解説者：人見潤介、寺見元恵。
- 紹介「比較史・比較歴史教育研究会編『黒船と日清戦争—歴史認識をめぐる対話—』」『アメリカ学会会報』123号(1996年10月) : 3頁
- 「戦後50年とフィリピン」『季刊・戦争責任研究』第11号(1996年春季号、1996年3月15日) : 50-54, 75頁。
- 「メイド処刑事件とラモス政権」『世界』(1995年6月号) : 251-255頁。
- 「レイテ湾上陸50周年記念式典参加記」『季刊・戦争責任研究』第6号(1994年冬季号、1994年12月15日) : 84-87頁。
- 『インタビュー記録 日本のフィリピン占領』日本のフィリピン占領期に関する史料調査フォーラム編(龍溪書舎、1994年8月)。担当部分(インタビュー2,3,4,14、責任編集) : 53-165, 481-538頁。共同編集者：池端雪浦、早瀬晋三、寺田勇文、永野善子、川島緑。
- 「白書・日本の戦争責任：フィリピン」『世界』(1994年2月号) : 162-163頁。
『復刻版 比島調査報告』第一分冊解説(龍溪書舎、1993年4月)担当部分「総説」、「第二篇」及び「英文紹介」 : 1-7, 9-12, 20-22頁。共著者：早瀬晋三、寺田勇文、永野善子。
- 「書評・吉川洋子著『日比賠償外交交渉の研究1949-1956』」『国際政治』101号(1992年10月) : 143-146頁。
『フィリピンの事典』(同朋舎出版、1992年4月)担当部分「植民地化(アメリカ期)」など四項目 : 182-183, 281, 290, 324頁。共著者：阿江茂、青柳洋治、浅野幸穂、ルベン・アビド、荒哲、アンヘル・アルカラ、ペドロ・アルビオラ、シンプリシア・アロンソ・パシコラン、五十嵐忠孝ほか78名。
- 「米国の干渉政策とフィリピン社会」『アメリカ史研究』10号(1987年) : 1-5頁。
- 「オリガーキーと民衆はいつ「離婚」するのか？」『現代史通信』(日本現代史研究会、再刊第8号 : 1986年5月) : 1-6頁。
- 「冷戦とフィリピン民衆：フク反乱制圧をめぐるアメリカの干渉政策をめぐって」『現代史サマーセミナー通信』2号(1984年11月) : 2-5頁。

B. 本研究科着任後の研究活動（着任1999年）

(a) 国内外学会発表

“A Comfort Zone? The late 20th Century Japanese Experience in Southeast Asia,” 18th International Conference on Japanese Studies (Revisiting Southeast Asia – Japanese Relations), 31 January 2020. Ateneo de Davao University, Davao, Philippines. *

「Looking into Landscape, Looking into History—Google Satellite から始める現代史授業実践の試みから考えたこと—」日本国際文化学会第 18 回全国大会・自由論題報告、長崎大学文教キャンパス、2019 年 7 月 7 日。

“Whereabouts of the Eirei Spirits: Post-World War II Japanese efforts to recover human remains of the war dead in the Philippines. (Panel 163: Contested Sites of War Memory: Monuments, Memorials, and Films in China, Japan, and the Philippines)” AAS in Asia 2019 (Association of Asian Studies), 3 July 2019. Royal Orchid Sheraton, Bangkok, Thailand.
Discussant. New Book Workshop: Japan’s Occupation of Java in the Second World War: A Transnational History by Prof. Ethan Mark. 18 November 2018. Tokyo University of Foreign Studies.

「グローバル授業で学ぶ「戦争」・「大規模暴力」・「記憶」・「和解」—Topics of Modern and Contemporary History における授業実践の経験から—」；公開シンポジウム・パネルディスカッション（パネリスト）、日本国際文化学会第 17 回全国大会・自由論題報告、多摩大学湘南キャンパス、2018 年 7 月 7 日。

コメンテーター、東京歴史科学研究会第 52 回大会・委員会企画：「平和」の内実を問う—権力の「平和」と地域の「平和」—、学習院大学目白キャンパス、2018 年 4 月 29 日。

問題提起・パネルディスカッション司会、日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と立地・環境：都市・農村関係の再構築を考える」、日本学術会議講堂、2017 年 7 月 8 日。

問題提起・パネルディスカッション司会、日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と立地・環境：都市・農村関係の再構築を考える」、日本学術会議講堂、2017 年 7 月 8 日。

“Overcome by Nationalism: Japanese Occupation of Southeast Asia (1942-1945) as Remembered by the Occupiers,” International Conference on the 75th Anniversary of World War II in the Philippines, 17-19 August 2017. Holy Angel University, Angeles City, Philippines. *

“The Nexus Approach to Asia’s Sustainable Future,” The 22nd Biennial Conference of the AASSREC: Sustaining a Green and Equitable Future in Asia-Pacific, April 21, 2017. Institute of Population and Labor Economics, CASS, Beijing, China. [venue: Fragrant Hill Hotel, Fragrant Hill Park, Beijing, China].

トークセッション対談者、国際交流基金アジアセンター主催レイナルド・C・イレート講演会「フィリピン史の中の日本の立ち位置を再考する」国際交流基金 JFIC ホール（東京都新宿区）、2016 年 7 月 21 日。

“Forgiveness Should be Accompanied by Remembrance: War Memories and the Postwar Philippines-Japan Relations,” A Seminar on the Legacy of Elpidio Quirino, Sixth President of the Republic of the Philippines. 17 July 2016. Room 402, 4th Floor, Bldg. 12, Sophia University (Yotsuya Campus). *

「コメント」シンポジウム A 「戦時下アメリカのマイノリティーエスニシティ・人種・ジェンダーの視点から」日本アメリカ史学会第 12 回年次大会、北海道大学、2015 年 9 月 26 日。

“Between a single story and the different truths: Filipino Veterans of World War II, 1941-2015 (Workshop B: Wars and the Twentieth Century and Beyond II),” The 49th Annual Meeting of the Japanese Association for American Studies, 6 June 2015, International Christian University, Tokyo.

“The Death of Manila in World War II and Postwar Commemoration,” Authenticity and Victimhood in 20th Century History and Commemorative Culture: Historical Experience and the Construction of Victim Identities in International Comparison. 10-12 December 2014. at Topographie Des Terrors, Berlin. *

「東アジア」をめぐる「想像の共同体」とアメリカ」日韓文化交流基金主催・第 14 回日韓歴史家会議「世界史認識における‘アメリカ’の問題」、TKP 品川カンファレンスセンター、2014 年 11 月 7 日～9 日。 *

“Japan’s Imagined Geographies of East Asia since the 1990s,” Visiting Scholars Roundtable, Sigur Center for Asian Studies,

- George Washington University, August 27, 2014.
- “Juridical Arenas”: Temporal-spatial Frames of the War Crimes Adjudicated. “JURIDICAL ARENAS” IN ALLIED WAR CRIMES TRIAL PROGRAM. June 9, 2014. at Boston College, Chestnut Hill, MA. *
- “Who liberated whom?: remembering Japanese Occupation of South East Asia,” University of Washington, Seattle, May 22, 2014. *
- A Dark Truth: Japanese “Kirikomi” attacks in the Battle of Manila, February 3 to March 3, 1945. COLONIALISM, IDEOLOGY, AND GENOCIDE IN COMPARATIVE PERSPECTIVE: THE LONG 20TH CENTURY. March 28, 2014, Washington University in St. Louis.*
- Discussant, “Roundtable: Asia Pacific Historical Reconciliation.” March 20, 2014. George Washington University Sigur Center for Asian Studies.
- .Commentator, “Pacific Worlds: Shared Environments, Sustainable Futures” (I) アメリカ学会第47回年次大会、東京外国語大学、2013年6月2日。
- Commentator, “The Transnational Landscape of the American Empire Shaped by Paupers, Nurses, and Migrants, 1850–1940,” November 18, 2012. American Studies Association Annual Meeting. Puerto Rico Convention Center, Sun Juan, Puerto Rico.
- 「アラン・スピアから考えるアメリカ政治とセクシュアリティ」アメリカ史学会第9回年次大会シンポジウムC「同性愛/同性婚を通して見るアメリカ—1950年代から現在まで」、一橋大学、2012年9月23日。
- “Introduction,” 暴行, 创伤, 记忆体: 中、日、菲三国二战及战后经验国际学术研讨会 — Atrocity, Trauma and Memory: Symposium on Experiences of China, Japan and Philippines during and after the World War II —. March 27, 2012. 南京大学・中华民国史研究中心。
- “Ways to Tell the Unspeakable: in the Post-World War II Filipino Memories and Imagination,” Une conférence donnée par M. Satoshi Nakano, November 12, 2011. Université Paris III – Sorbonne Nouvelle, bâtiment Censier, salle 414.
- “Japanese Academic Communities after the Quake,” Roundtable: Japan in the Wake of 3/11 Eastern Japan Earthquake/Tsunami/Nuclear Disaster. October 22, 2011. American Studies Association Annual Meeting. Baltimore Hilton Hotel, Baltimore, Maryland.
- 「フィリピン戦の歴史と今」ブリッジ・フォー・ピース主催「つながる☆BFP フィリピン・イベント～ハロハロ入門～」、JICA 地球村、2010年5月14日。
- “Battle of Manila 1945: Politics of Forgetting and Remembrance,” Nanjing 1937 / Manila 1945: Remembrance and Reconciliation, March 16, 2010, Center for Philippines Studies, School of Pacific and Asian Studies, University of Hawai‘i at Manoa.
- 「アメリカ研究の展望：歴史」立教大学アメリカ研究所設立70周年レクチャー・シリーズ「1939/2009 アメリカ研究の軌跡と展望」、立教大学アメリカ研究所、2009年11月14日。*
- “Battle for Manila 1945: Issues of Truths and Memories,” Roundtable: Battles of Manila and Nanjing: Atrocity, Justice and Reconciliation, November 6, 2009. The Sigur Center for Asian Studies, The Elliott School of International Affairs, George Washington University.
- “The Lost City: Carmen Guerrero Nakpil and the Battle for Manila 1945,” The 8th International Conference on Philippine Studies (23-26 July 2008) Session 6B: Comparing Empires, Remembering War: Spain, the U.S. and Japan in Philippine History, July 24, 2008, Escaler Hall, Ateneo de Manila University, Loyola Heights campus, Quezon City, Philippines.
- “Battle for Manila: A Japanese View,” TRUTHS AND MEMORIES OF WORLD WAR II: THE NANJING MASSACRE AND THE BATTLE FOR MANILA, March 18 and 19, 2008, Ateneo de Manila University, Loyola Heights campus.
- “Memory and Mourning: The Six Decades after the Two Wars”, The First Philippine Studies Conference of Japan, November 11, 2006. Tokyo Green Palace Hotel, Ichigaya, Tokyo. *

- “Politics of Mourning in the Post WWII Philippines-Japan Relations,” *Filipino Studies in Japan: Translation, Marriage, Politics: A Symposium*, April 11, 2006 at the Bunche Hall, UCLA Campus, Los Angeles
- “Lost in Memorialization? : Unmaking of ‘History Issues’ in Postwar Philippines-Japan Relations,” Paper presented at the Symposium: The Philippines-Japan Relationship in an Evolving Paradigm, March 8-9, 2006 at the Don Enrique Yuchengco Hall, De La Salle University, Taft Avenue, Manila (organized by JICC Embassy of Japan, Japan Foundation, Manila, and Yuchengco Center, DLSU) Angeles (organized by UCLA Center for Southeast Asian Studies).*
- 『フィリピン反乱』の語り方——米比戦争の記憶とヴェトナム戦争 j・戦後 30 年」アメリカ学会第 39 回年次大会・部会 A 「<ヴェトナム>の記憶——戦争終結 30 周年を迎えて」(京都大学、2005 年 6 月 5 日)
- コメンテーター、歴史学研究会総合部会シンポジウム「方法としての『オーラル・ヒストリー』再考」(早稲田大学文学部 2005 年 4 月 3 日)
- 「アメリカ史研究の立場から」イギリス帝国史研究会シンポジウム「イギリス帝国史研究の現在(いま)ーそして未来へー(2)」(京都大学文学部、2004 年 12 月 19 日)
- 「帝国文化としての『自助支援』論——黒人社会学者アーネスト・ニールとアメリカ南部／第 3 世界の社会開発事業 1939-1972」中央大学第 21 回学術シンポジウム公開シンポジウム「帝国文化のかたちー均質化か混濁化か」(中央大学駿河台記念館、2004 年 11 月 6 日) *
- Commentator 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「日本占領期ビルマに関する総合的歴史研究」(トヨタ財団計画助成研究) 主催シンポジウム “Reconsidering the Japanese Military Occupation in Burma (1942-45)” 武島良成 Takeshima Yoshinari “The Burmanization Policy under the Japanese Occupation in Burma”に対して(東京外国語大学、2004 年 10 月 9 日)
- “Filipino World War II Veterans Equity Movement and the Filipino American Community.” (Paper prepared for the 7th International Conference on Philippines Studies, The International Institute for Asian Studies, Leiden, Netherland, June 16-19, 2004).
- コメンテーター、日本西洋史学会第 54 回大会シンポジウム「帝国の終焉と国際秩序の再編ーアジアをめぐる欧米諸国の相克ー」(東北学院大学/仙台国際センター、2004 年 5 月 21 日)
- コメンテーター、東京外国語大学国際シンポジウム「21 世紀アーカイヴを創る”Creating an Archive Today: Decisions, Uses, Documentation”」第 3 セッション「『新しい』歴史の可能性 Creating (New) Histories」(東京外国語大学、2003 年 12 月 19 日)
- “A Tale of Two Democracies: Scenes from Bilateral Philippine-U.S. History of Electoral Democracy.” (Paper prepared for the Kyoto American Studies Seminar 2003, Ritsumeikan University, Kyoto, Japan, July 24-26, 2003).
- 「フィリピンの米軍基地と『基地以後』」南山大学アメリカ研究センター・シンポジウム「安保体制の中のアメリカ軍基地の役割」報告(南山大学名古屋キャンパス、2002 年 11 月 16 日)
- Commentator 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター主催シンポジウム Memory of Wars, Memory of Exclusion, Session 1 “Memories of the War in the Pacific Region and the Possibilities of Intercivilizational Dialogues” (如水会館、2002 年 9 月 8 日)
- “Nation and Citizenship in the Filipino World War II Veterans Equity Movement, 1945-2001,” (Paper prepared for the Sixth International Symposium of the JCAS Joint Research Project on State, Nation and Ethnic Relations: “We the People” in the Global Age: A Re-examination of Citizenship and Nationalism), November 21 at National Museum of Ethnology, Osaka. The Japan Center for Area Studies (JCAS) in cooperation with Center for Global Security and Democracy, Rutgers University.
- 「フィリピン政治史像をめぐる米比論争と日本のフィリピン史研究」東南アジア史学会第 65 回研究大会シンポジウム「ナショナル・ヒストリーとどう向き合うか」報告(東京女子大学、2001 年 6 月 3 日)
- 「民主主義と他者認識」アメリカ学会 2000 年度大会報告(帝塚山大学、2000 年 6 月 3 日)。

(b) 国内研究プロジェクト

- ・アジア太平洋地域の構造変動における米国の位置と役割に関する総合的研究(国内共同研究)1998 年度～2003 年度.
- ・日米のナショナリズムと市民像の比較(分担)(国内共同研究) 1999 年度～2001 年度.
- ・帝国統治システムの移転とアジア・欧米関係の変化に関する研究(国内共同研究) 2003 年度～2005 年度.
- ・アメリカ合衆国の連邦軍とマイノリティの関係をめぐる比較史的研究(出資金による受託研究) 2002 年度～2005 年度.
- ・安倍フェローシップ 「民主化」をめぐり越境的経験とその記憶:米比植民地・ポスト植民地関係と日本占領をめぐって(出資金による受託研究) 2003 年度～2004 年度.
- ・「植民地責任」論から見る脱植民地化の比較歴史学的研究(国内共同研究)2003 年度～2004 年度.
- ・オーラル・ヒストリーの手法を用いた第2 次世界大戦と脱植民地化過程の研究(国内共同研究)2004 年度～2005 年度.
- ・マニラ戦の実像と記憶: 平和のための地域研究(国内共同研究) 2007 年度～2010 年度.
- ・アジア・太平洋戦争史とジェノサイド研究の架橋と統合: 正義・和解・記憶の総合的比較研究(出資金による受託研究)2013 年度～2014 年度.

(c) 国際研究プロジェクト

- ・日比交流史研究フォーラム(分担) (国際共同研究) 1997 年度～2000 年度
- ・オーラルヒストリーの手法によるフィリピン開発主義体制の研究 (国際共同研究) 2007 年度～2010 年度
- ・アジア・太平洋戦争および現代世界における大規模暴力をめぐり総合的比較研究 (国際共同研究) 2011 年度～2013 年度
- ・「アジア太平洋戦争史」の比較と総合: 国際的研究教育プログラムの開発 (国際共同研究) 2015 年度～2018 年度

(d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

多数

C. 受賞

- 1.大平正芳記念賞 2008 年 6 月
- 2.アメリカ学会清水博賞 1997 年 6 月

6. 学内行政

(A) 役員・部局長・評議員等

2009 年 01 月～2010 年 11 月 一橋大学社会学研究科 役員補佐
2011 年 04 月～2013 年 03 月 一橋大学社会学研究科 評議員
2014 年 12 月～2016 年 11 月 一橋大学社会学研究科 研究科長
2016 年 12 月～2018 年 07 月 一橋大学国際共同研究センター センター長
2016 年 12 月～2018 年 11 月 一橋大学 副学長
2020 年 09 月～ 一橋大学 学長

(B) 学内委員会

学生委員会（委員長）

入学試験実施委員会（委員長）

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

津田塾大学（2007～2013年）

青山学院大学（2016年）

京都大学（2010～2011年）

(b) 所属学会および学術活動

東南アジア学会 大会委員（2000年4月～2004年3月）

歴史学研究会 事務局長（2007年6月～2011年5月）

アメリカ学会 常務理事・国際委員長（2010年4月～2014年3月）

アメリカ史学会 編集代表（2003年4月～2005年3月）

日本歴史学協会 常任理事(2012年6月～現在まで)同時代史学会

国際政治学会

比較政治学会

日本移民学会

(c) 公開講座・市民講座

川崎市民講座（2010年1～2月）

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

県立千葉高校（2016年9月）

東奥義塾高校（2009年7月）

オープンキャンパス（2011年）

(e) その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

一般社団法人監査懇話会（2018年6月12日）。

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

日本学術会議 連携会員 2011年10月～2017年9月

日本学術会議 特任連携会員 2017年10月～2020年9月

日本学術会議 連携会員 2020年10月～

大学入試センター 新教育課程試験問題調査研究特別部会（歴史分科会）2020年4月～2021年3月

9. 一般的言論活動

(1) 時代考証 NHK 特集ドラマ「マンゴーの樹の下で」総合TV 2019年8月8日夜10時（73分版）、BSプレ

ミアム 8月21日夜9時(89分版)、BS4K 8月24日夜7時(89分版)

- (2) (制作協力) BS1 スペシャル「マンゴーの樹の下で～わたしはこうして地獄を生きた～」2019年8月4日午後10時00分～11時50分、8月17日 前編 BS4K 午後7時00分～8時00分、8月18日(日) 後編 BS4K 午後7時00分～8時00分
- (3) TBS ラジオ・荻上チキ・セッション22「米軍がフィリピン再駐留へ。その歴史的背景とは？」(探究モード) 2016年1月14日放送。
- (4) NHK ニュース「両陛下きょうフィリピン訪問」
- (5) 日本経済新聞 2016年1月26日朝刊 36頁「友好築いた「謝罪と寛容」／(インタビュー) 和解の質 高める契機に」
- (6) NHK Radio Japan: Insight 21:00pm, 27 January 2016
- (7) TBS ラジオ・荻上チキ・セッション22「天皇・皇后両陛下がフィリピン公式訪問。戦時中、日本軍は何をしたのか？」(探究モード) 2016年1月27日放送。
- (8) 日テレ NEWS EVERY.戦後70年 「いま、わたしがいる理由(わけ)」渡部絵美さんとフィリピン 2015年12月21日放送。
- (9) NHK BS1 スペシャル「憎しみとゆるし～マニラ市街戦 その後～」2014年8月29日放送。
- (10) NHK/ETV 特集「戦場で書く～作家 火野葦平の戦争～」2013年12月7日放送。
- (11) NHK スペシャル「従軍作家たちの戦争」2013年8月10日放送。
- (12) NHK放送「マニラ市街戦」(2007年8月5日放送) 制作協力(2007～2008年)
- (13) NHK放送「その時歴史が動いた」(2007年9月5日放送) 制作協力・出演(2007～2008年)